

令和5年度 山形広域環境事務組合の財務書類（統一的な基準）について

1. 統一的な基準による財務書類とは

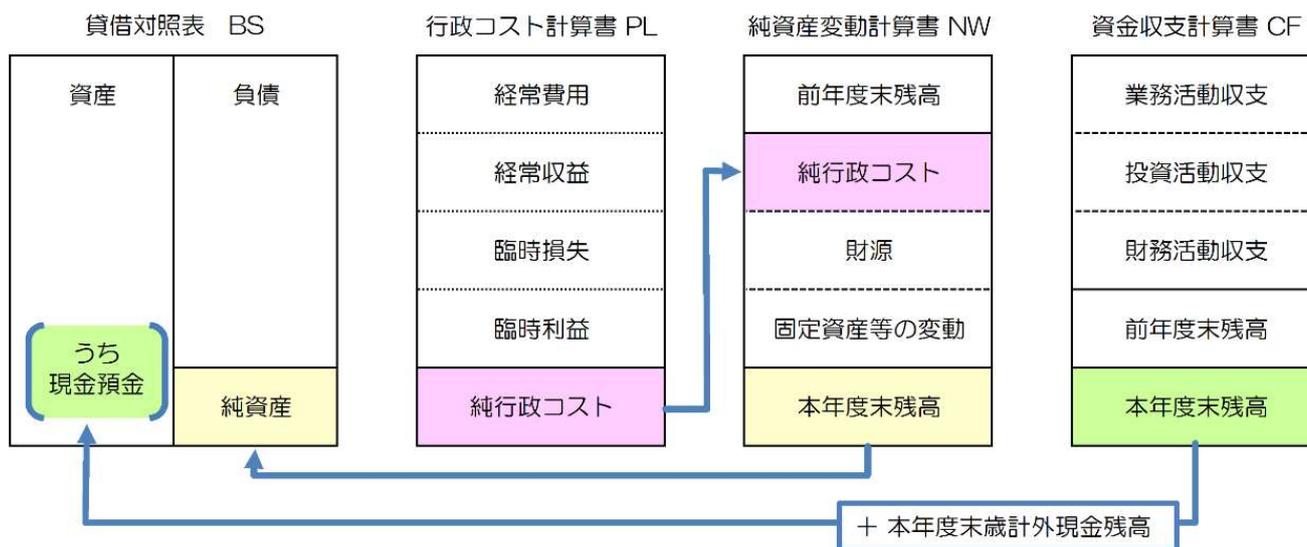
地方公共団体における予算・決算に係る会計制度（官庁会計）は、現金収支を議会の民主的統制下に置くことで、予算の適正・確実な執行を図るという観点から、確定性、客観性、透明性に優れた単式簿記による現金主義会計を採用しています。

しかし、官庁会計ではストック情報（資産・負債）の一覧的把握や、減価償却費といった歳出を伴わないコストも含む正確なコストの把握ができないという欠点もあります。

統一的な基準による財務書類とは、官庁会計において不足している部分を補完するために、民間企業における会計の考え方（発生主義・複式簿記）に基づいて作成される次の4表のことをいいます。

貸借対照表（BS）	年度末時点における財政状態（資産・負債・純資産の残高及び内訳）を表示したもの
行政コスト計算書（PL）	1年間の費用・収益の取引高を表示したもの
純資産変動計算書（NW）	1年間の純資産（及びその内部構成）の変動を表示したもの
資金収支計算書（CF）	1年間の現金預金の受払いを3つの区分で表示したもの

【財務書類4表の相互関係】



① 貸借対照表 (BS)

**貸借対照表** 【様式第1号】  
(令和 年 月 31日現在) (単位: )

科目	金額	科目	金額
<b>【資産の部】</b>		<b>【負債の部】</b>	
固定資産		固定負債	
有形固定資産		地方債	
事業用資産		長期未払金	
土地		退職手当引当金	
立木竹		損失補償等引当金	
建物		その他	
建物減価償却累計額		流動負債	
工作物		1年内償還予定地方債	
工作物減価償却累計額		未払金	
船舶		未払費用	
船舶減価償却累計額		前受金	
浮橋等		前受収益	
浮橋等減価償却累計額		賞与等引当金	
航空機		預り金	
航空機減価償却累計額		その他	
その他			
その他減価償却累計額			
建設仮勘定			
インフラ資産			
土地			
建物			
建物減価償却累計額			
工作物			
工作物減価償却累計額			
その他			
その他減価償却累計額			
建設仮勘定			
物品			
物品減価償却累計額			
無形固定資産			
ソフトウェア			
その他			
投資その他の資産			
投資及び出資金			
有価証券			
出資金			
その他			
投資損失引当金			
長期延滞債権			
長期貸付金			
基金			
減債基金			
その他			
その他			
徴収不能引当金			
流動資産			
現金預金			
未収金			
短期貸付金			
基金			
財政調整基金			
減債基金			
棚卸資産			
その他			
徴収不能引当金			
資産合計		負債及び純資産合計	

**【資産】**  
行政サービスを提供するための公共施設等の固定資産や、将来行政サービスに使用する現金、債権等の資産

**【負債】**  
地方債など、これから支払っていかねばならないもの  
＝将来世代の負担となるもの

**【純資産】**  
資産と負債の差額であり、これから支払う必要のないもの  
＝過去又は現世代の負担によるもの

左半分は「組合の持ちもの」  
資産がどのような状態で、いくら保有されているか

右半分は「資産の源泉」  
資産がどのような財源でつくられたか

② 行政コスト計算書 (PL)

**行政コスト計算書** 【様式第2号】  
自 令和 年 4月 1日  
至 令和 年 3月 31日 (単位: )

科目	金額
<b>経常費用</b>	
業務費用	
人件費	
職員給与費	
賞与等引当金繰入額	
退職手当引当金繰入額	
その他	
物件費等	
物件費	
維持補修費	
減価償却費	
その他	
その他の業務費用	
支払利息	
徴収不能引当金繰入額	
その他	
移転費用	
補助金等	
社会保障給付	
他会計への繰出金	
その他	
経常収益	
使用料及び手数料	
その他	
<b>経常行政コスト</b>	
臨時損失	
災害復旧事業費	
資産売却損	
投資損失引当金繰入額	
損失補償等引当金繰入額	
その他	
臨時利益	
資産売却益	
その他	
<b>総行政コスト</b>	

人件費、物件費、移転費用（補助金）などを発生額で計上

➤ 減価償却費  
固定資産の使用により価値の減少を認識する”支出の伴わない”コスト  
取得価額と耐用年数から算出

経常的に発生する費用から、使用料および手数料といった受益者負担収益を差引くことで純経常行政コストを算出

臨時に発生する損失、利益を加味して純行政コスト（一般財源等で賄うべきコスト）を算出

③ 純資産変動計算書 (NW)

【様式第3号】

純資産変動計算書

自 令和 年 4月 1日  
至 令和 年 3月 31日

(単位: )

**【本年度差額】**  
発生主義ベースでの収支均衡が図られているかを示す

**プラス**  
現世代の負担によって将来世代も利用可能な資源を貯蓄している

**マイナス**  
将来世代が利用可能な資源を現世代が消費して便益を享受している

科目	合計	固定資産等形成分	余剰分(不足分)
前年度末純資産残高			
純行政コスト(Δ)			
財源			
税金等			
国県等補助金			
<b>本年度差額</b>			
固定資産等の変動(内部変動)			
有形固定資産等の増加			
有形固定資産等の減少			
貸付金・基金等の増加			
貸付金・基金等の減少			
資産評価差額			
無償所管換等			
その他			
本年度純資産変動額			
本年度末純資産残高			

純行政コストに対して、税金等および補助金等受入など、受益者負担以外の財源によりどの程度賅われているかを把握

④ 資金収支計算書 (CF)

【様式第4号】

資金収支計算書

自 令和 年 4月 1日  
至 令和 年 3月 31日

(単位: )

**【業務活動収支】**  
経常的な活動に関する収支を集計

通常プラスになることが望ましく、マイナスの場合は財政的に良好ではない状態

科目	金額
<b>【業務活動収支】</b>	
業務支出	
業務費用支出	
人件費支出	
物件費等支出	
支払利息支出	
その他の支出	
移転費用支出	
補助金等支出	
社会保障給付支出	
他会計への繰出支出	
その他の支出	
業務収入	
税金等収入	
国県等補助金収入	
使用料及び手数料収入	
その他の収入	
臨時支出	
災害復旧事業費支出	
その他の支出	
臨時収入	
<b>業務活動収支</b>	
<b>【投資活動収支】</b>	
投資活動支出	
公共施設等整備費支出	
基金積立金支出	
投資及び貸出資金支出	
貸付金支出	
その他の支出	
投資活動収入	
国県等補助金収入	
基金取崩収入	
貸付金元金回収収入	
資産売却収入	
その他の収入	
<b>投資活動収支</b>	
<b>【財務活動収支】</b>	
財務活動支出	
地方債償還支出	
その他の支出	
財務活動収入	
地方債発行収入	
その他の収入	
<b>財務活動収支</b>	
本年度資金収支額	
前年度末資金残高	
本年度末資金残高	
前年度末歳計外現金残高	
本年度歳計外現金増減額	
本年度末歳計外現金残高	
本年度末現金預金残高	

一般的に、業務活動収支がプラスの範囲内で投資活動収支を賅い、さらには財務活動収支も賅うのが理想とされています

**【投資活動収支】**  
投資的な活動に関する収支を集計

資産形成等が行われれば、マイナスになることが多く、プラスの場合は基金の取り崩しが行われ、資産形成等がほとんどなかったことを示す場合が多い

**【財務活動収支】**  
財務的な活動に関する収支を集計

地方債の新たな発行が償還よりも多ければプラス、新たな発行が償還よりも少なければマイナス

## 2. 対象とする会計の範囲と連結の方法

### ① 対象とする会計の範囲

総務省の財務書類作成要領により、一般会計及び地方公営事業会計以外の特別会計からなる一般会計等財務書類を作成します。さらに、一般会計等に地方公営事業会計を加えた全体財務書類、全体財務書類に地方公共団体の関連団体を加えた連結財務書類をあわせて作成します。

対象となっている会計の範囲は次の通りです。

区分	会計・団体名称
一般会計等	一般会計

## 3. 財務書類の概要

次のページからは、令和5年度の山形広域環境事務組合財務書類の概要版を掲載しています。

前提としまして、以下の注意点があります。

- ① 令和6年4月1日から5月31日までの出納整理期間の収支については、年度内に行われたものとして作成しています。
- ② 表示単位未満を四捨五入していますので、合計額が一致しない場合があります。

(1) 一般会計等財務書類

(単位：千円)

貸借対照表 BS			
資産		負債	
1 固定資産	16,721,737	1 固定負債	10,651,770
①有形固定資産	16,721,737	①地方債	10,651,770
i 事業用資産	10,455,499	②その他	-
ii インフラ資産	-	2 流動負債	1,268,972
iii 物品	6,266,237	①1年内償還地方債	1,247,545
②無形固定資産	-	②その他	21,427
③投資その他資産	-	負債合計	11,920,742
2 流動資産	61,450	純資産	
①現金預金	61,450	純資産合計	4,862,445
②未収金	-		
③基金	-		
④その他	-		
資産合計	16,783,187	負債・純資産合計	16,783,187

行政コスト計算書 PL	
1 経常費用	3,271,214
①業務費用	3,232,240
i 人件費	264,823
ii 物件費等	2,944,355
(うち減価償却費)	1,136,252
iii その他の業務費用	23,062
②移転費用	38,975
i 補助金等	37,492
ii 社会保障給付	-
iii その他	1,483
2 経常収益	788,554
①使用料及び手数料	346,048
②その他	442,506
3 純経常行政コスト	2,482,660
4 臨時損失	0
5 臨時利益	77
6 純行政コスト	2,482,583

資金収支計算書 CF	
1 業務活動収支	1,261,770
①業務支出	2,136,155
②業務収入	3,397,925
③臨時支出	-
④臨時収入	-
2 投資活動収支	△ 481,690
①投資活動支出	605,122
i 公共施設等整備費支出	605,122
ii 基金積立金支出	-
iii その他の支出	-
②投資活動収入	123,432
i 国県等補助金収入	123,355
ii 基金取崩収入	-
iii その他の収入	77
3 財務活動収支	△ 755,775
①財務活動支出	1,130,775
②財務活動収入	375,000
4 本年度資金収支額	24,305
5 前年度末資金残高	35,774
6 本年度末資金残高	60,079

純資産変動計算書 NW	
1 純行政コスト	△ 2,482,583
2 財源	2,732,726
①税収等	2,609,371
②国県等補助金	123,355
3 本年度差額	250,143
4 その他増減	-
5 本年度純資産変動額	250,143
6 前年度末純資産残高	4,612,301
7 本年度末純資産残高	4,862,445

+ 歳計外現金1,371

一般会計等の貸借対照表 BS から、令和5年度末時点において168億円の資産を所有し、119億円の負債があることがわかります。資産のうち有形固定資産の事業用資産が62%、物品が37%を占めており、資産のほとんどが有形固定資産となっています。

行政コスト計算書 PL より、純行政コストは25億円となっており、経常費用のうち減価償却費11億円を含む物件費等が占める割合が最も高くなっています。

純資産変動計算書 NW の税収等は、構成市町からの負担金となっています。財源（税収等・国県等補助金）が純行政コストを上回っているため、本年度差額が2.5億円プラスとなっており、純資産残高を増加させる結果となっています。

また、資金収支計算書 CF において、本年度資金収支額がプラス24,305千円となっています。地方債の償還や施設整備が行われていますが、構成市町からの負担金である税収等収入が増加していることなどから、資金残高の増加に繋がっています。コストに対する財源は確保出来ており、健全な行政運営が行われている状況と言えます。